

# 日本で作り上げるエレガンス

アイテムはワンピースとコートに絞  
り込んだ。手の込んだ柄、レース、  
刺繍など凝った二次加工が特徴



## セダースレアリーズの婦人服「ルミアルモ」

### 合同展「プラグイン・グランプリ」

婦人服のセダースレアリーズ(東京、杉浦裕康社長、電話03・3421・7539)は昨年、「ヨーロッパに負けない日本発の服」を掲げて設立した。今春夏物から婦人服ブランド「ルミアルモ」をスタート。3月に合同展「プラグイン・グランプリ」に出展し、来場バイヤーの投票で選ばれた「プラグイン・グランプリ」に輝いた。さらに理想の物作りを目指して今月末に素材メーカー14社と意匠展を開き、日本の厳選生地の開発に挑む。

「日本には素材、縫製、デザイン、販売と、良い商品を提供できる環境がある。にもかかわらず売り場に並ぶのは同質化した売れ筋ばかりで、魅力的な商品を提供しているのは海外ブランド。この構図を変えたい」。60歳だった杉浦社長は、強い思いに突き動かされて起業した。かつて有力アパレルで欧州の著名ブランドに三数年携わり、そのキャリアの中で日本の良さを海外のクリエイターから教えられた。しかし、今、売り場を見ると「日本の素材もメイド・イン・ジャパンも激減し、同質化している」と市場への不満が募り、デザイナーの熊谷知帆子と2人で立ち上げた。



「プラグイン・グランプリ」のクリスタルカップを手にする杉浦社長

を聞く(年

2回を予定)。第2ステップは海外進出。欧米、香港、中国本土の展示会に出る計画だ。第3ステップはセ

レクトショップの出店。「日本の発信の良品を国内外に伝え、服を愛する仲間たちと日本の文化を育み、物の力を証明していきたい」と語る。

素材メーカーとの意匠展は29、30日、東京・原宿OMビルで開く。ルミアルモのほか、素材メーカー4社の素材や製品を展示する。参加メーカーは横編みのフクエー(新潟・加茂市)、産元商社の丸中(桐生)、丸編みの森トメリヤス(和歌山)、織維商社の遠山産業(名古屋)。

ブランド名はフランス語で「光と調和」を意味する。ブランドのロゴを六角形の星にして、素材、縫製、クリエイション、パターン、販売(ファッショントラディション)。消費者の六つの思いにかなう商品を提供する決意を込めた。日本人のデザイナー、モダリストが手掛け、日本の厳選された素材(一部はイタリアやフランスからの輸入品)を使って日本国内で縫製される服を、顧客を熟知した販売員と、服を愛する生活者とともに作り出すのが目標だ。エレガントで手の込んだ柄、レース、刺繍などの凝った二次加工、丁寧な縫製と仕上げで、価格設定はコート9万円など。企画はワンピースとコートに絞り込んだ。「海外、特に香港や中国をはじめとするアジアのバイヤーの反応が目立つ」(杉浦社長)という。

事業構想は、第1ステップが展示会を軸にした卸し先の開拓。その中で合同展への出展や限定サンプルによる営業活動と並行して、商品力を向上させるために厳選素材の確保・拡充を目標として素材メーカーと展示会